

第 30 回 日本医学会総会 2019 中部について

去る 4 月 27 日～29 日、名古屋国際会議場を中心に「第 30 回 日本医学会総会 2019 中部」が開催された。

1902 年（明治 35 年）に東京で開催された第 1 回総会から 117 年の時を経て、元号が平成から令和に代わる時代の転換期に第 30 回総会が開かれたことは、新しい時代への期待とともにまさに記念すべきものとなった。

本総会のメインテーマである「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」について、齋藤英彦会頭は本年 1 月号の日医雑誌「新春対談」のなかで「日本は戦後の経済発展により、生活環境、衛生、栄養状態が大きく改善されました。また、医療体制の整備、医療の質の向上によって世界に類を見ない長寿を実現しました。加えて、教育レベルが高いということも長寿の一因であると思います。一方、高齢化に伴い寝たきりなどの要介護者の増加が指摘されており、古くからの人類の願いである健康長寿を目指す必要があります。どんどん進歩している技術、つまり医学と医療の深化と広がりによって、それが可能になるのではないかという思いを込めています」と述べられている。

このメインテーマのもと、「医学と医療の新展開」、「社会とともに生きる医療」、「医療人の教育と生き方」、「グローバル化する日本の医療」という時宜を得た 4 つの柱が立てられ、14 の市民公開講座を含め、90 を超えるセッションが企画され、大変な盛況であった。

また、開会講演ではノーベル物理学賞を受賞された天野浩先生、記念講演ではノーベル医学・生理学賞を受賞された本庶佑先生、閉会講演では同じくノーベル医学・生理学賞を受賞された山中伸弥先生など、各界の第一人者による講演があり、参加者が会場に入りきれないほどの盛況ぶりであった。

本総会登録者数は約 3 万人に上り、愛知県下の 4 つの医学部の学生約 5 千人も参加し、また 3 月 30 日から 4 月 7 日までポートメッセなごやを中心に開催された市民展示には、延べ 30 万 2 千人の一般市民の方々が来場されるなど盛会裏に終了した。

市民展示の来場者は親子連れの市民が多く、さまざまな企画を通じ医療に興味を持ち、このなかから将来の医療者が誕生することを大いに期待したい。

日本医師会としても、新たな試みとして開催地の愛知県医師会との合同セッション（柱 2-6-1 地域医療におけるかかりつけ医と総合診療専門医）を企画したが、他の多くのセッションにおいても、熱い議論が展開されたと認識している。

また、本総会最終日の 4 月 29 日には、齋藤英彦会頭、横倉義武日本医師会長、門田守人日本医学会長の連名による「健康社会宣言 2019 中部」が公表され、そこには「1. 未来の医療につながる基礎・臨床医学研究の推進、2. 多様な社会構成に対応できる医療環境の整備、3. 多様化する医療人の育成、配置、労働環境の整備、4. 国境の垣根を超えた医療の推進」が記された。

日本医学会総会は、2023 年 4 月に東京（東京国際フォーラム、東京ビッグサイトなど）で開催される第 31 回日本医学会総会の春日雅人会頭へとバトンが渡されたが、4 年後にこの「健康社会宣言 2019 中部」に示された内容がどのように政策として反映されているのか、期待を込めて注視していきたい。

あらためて、4 年間にわたり本総会の準備・運営に当たられ、成功に導かれた齋藤英彦会頭をはじめ関係者の方々ご努力に、心から敬意を表する次第である。

日本医師会としても、次回総会に向け、引き続きその運営を積極的に支援し、協力していく所存である。